

## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 日本ドレーク・ビーム・モリン(株)

5

「これまでどんな仕事をされてきましたか？」

「どんな実績を残されましたか？」

「まずどんなことから問題解決に臨みましたか？」……………。

ゆったりとしたラウンジ。気軽に話し合える雰囲気ブース。東京品川区・大崎ゲートシティのワンフロアへ求職相談に訪れた50代の男性に、ベテランのコンサルタントがにこやかな表情で対応する――。

10

2003年5月ゴールデンウィークの最中、再就職支援業界最大手・日本ドレーク・ビーム・モリン(株) (以下、日本DBM) の代表取締役社長・大槻忠男氏は、6月下旬に行なわれる株主総会において発表する中期事業計画の作成に向けて、社長室で思索を練っていた。

15

### 再就職支援サービス

日本DBMが提供する再就職支援サービスとは、「再就職先探しを助言するサービス」である。専門コンサルタントが、マン・ツー・マンで、求職者へカウンセリングを行ない、詳細な自己分析と希望に添った再就職目標の設定する。さらに職務経験の分析をして適職を診断、自身の強みをアピールする履歴書の書き方や面接を成功させるためのノウハウを指導している。

20

同社は1982年に設立され、その後順調に業績を伸ばし、1997年10月には店頭市場(現JASDAQ)に上場を果たした。平成15年3月期には、連結売上高10,010百万円(前年対比66.6%増)、営業利益3,006百万円(同89.9%増)、当期純利益1,491百万円(同83.9%増)と、過去最高益を実現するまでに成長を遂げた。

25

日本DBMの顧客リストには、自動車、電機、素材、食品の各メーカーから、ゼネコン、

---

このケースは慶應義塾大学ビジネススクール山根 節の指導のもとで、三田野 巖 (M26期) が公表情報をもとにクラス討議の資料として作成した。(2004年6月)

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp)。また、ケースの注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送は、これを禁ずる。

30